

令和 8 年度 第 1 回 学校運営協議会 議事録

校 名	大阪府立桜和高等学校
校長名	田中 愛子

開催日時	令和 8 年 7 月 1 日（水） 1 5 時～ 1 6 時 3 0 分
開催場所	大阪府立桜和高等学校 小会議室
出席者（委員）	藤原 和美 様 神山 卓也 様 関根 幹雄 様 松原 美佐都 様 吉田 謙一 様 宮本 直治 様
出席者（学校）	校長：田中 愛子 教頭（事務局長）：緒方 剛 事務長：平井 克彦 首席：栗本 幸治 首席：渡辺 久丹栄 探究主担：濱田 勇輝 進路指導部長：伊藤 達夫 生活指導部長：明貝 繁樹
傍聴者	なし
協議資料	令和 8 年度学校経営計画及び学校評価（案）、令和 8 年度学校教育計画（案）
備考	

議題等
○出席者による自己紹介 ○開会のあいさつ（校長） ○令和 8 年度学校経営計画について ○令和 8 年度学校教育計画について ○各分掌より報告 ○閉会のあいさつ
協議内容・承認事項等（意見の概要）

○令和8年度学校経営計画、学校教育計画、その他各分掌より

■【学校経営・教育内容に関する意見】

- 教員志望者育成を目的とした「教育の扉プロジェクト実行委員会」及び教育版 MIRA-GE（ミラッジ、未来の学校を考えるワークショップ）の取組は非常に意義深い。
- 学校運営においては大学進学実績だけでなく、コミュニケーション能力や行動力、主体性を育成する教育活動が重要である。
- 探究活動や国際交流活動は、生徒の主体性や対話力の育成につながっていると感じる。
- 教科指導や日々の授業においても探究的・対話的な学びを継続してほしい。
- AI活用について、生徒指導や授業改善、校務効率化の両面から今後さらに推進してほしい。
- 生徒の学校外交流に関する評価項目については、実際には多くの取組が行われているが、生徒自身がその活動を認識していない可能性がある。
- 教職員間の連携に関する肯定的回答率が低下したことについては、職員室配置等の物理的要因も影響しているのではないか。
- 働き方改革を進めながら、生徒・教職員双方に「余白」を生み出す取組は重要である。

■【国際交流・留学に関する意見】

- 公立高校として複数の姉妹校を有し、継続的な国際交流を実施していることは大きな特色である。
- 留学や受入れを通して、多様性や異文化理解が深まる教育環境が整備されている。
- 長期留学や交換留学について、今後も継続してほしい。

■【探究活動に関する意見】

- 全生徒が探究活動に取り組んでいる点は高く評価できる。
- ビブリオバトルや地域探究など、対話を重視した活動は継続してほしい。
- 地域との連携や学校外での活動をさらに可視化することで、生徒自身の認識向上につながるのではないか。
- 教職教育コースの実習やボランティア活動は、教員志望者育成に有効である。

■【生活指導に関する意見】

- 生徒主体の校則検討委員会は、生徒の主体性育成につながる取組として評価できる。
- 遅刻指導については一定の改善が見られるが、継続的な取組が必要である。
- 体育祭や文化祭などの学校行事を通して、生徒の自治的活動を今後も充実させてほしい。

■【進路指導に関する意見】

- 国公立大学や教育系大学への進学実績が向上していることは評価できる。
- 総合型選抜や推薦型選抜への対応体制が整備されていることに安心感がある。
- 面接指導や探究活動の成果が進路実現につながっていると感じる。
- 生徒自身が学び方を身に付け、自ら学習を進める力を育成することが重要である。
- AIを活用した志望理由書指導など、新たな取組にも期待している。